

20097

A case sheath introducer breakage during removal of the Cutting Balloon

【背景】末梢動脈疾患（PAD）に対する血管内治療（EVT）において薬剤コーティングバルーン（DCB）や Supera スtentなどのデバイスが使用可能となり、最適な Lesion Preparation の重要性が増している。Cutting balloon は比較的少ない血管損傷で最適な Lesion Preparation が行えるといわれるが、今回は Complication を経験したので報告する。【症例】55 歳、男性。5 分程の右下肢の間欠性跛行症状で当院を受診し、右下肢 ABI 0.78 と低下し、右 SFA に 90% 狭窄を認めため EVT を施行した。同側順行性に 6Fr ラジフォーカスイントロデューサー（Terumo）を挿入し治療を開始した。DCB で治療を行う予定とし、病変部を Semi-compliant balloon で拡張したが、拡張が不十分であった。Peripheral Cutting balloon（Boson scientific）で拡張が得られた。Peripheral Cutting balloon を抜去する際に、シースの先端から根本まで断裂した。多少の腫脹を認め、すぐに圧迫しシースの交換を行った。病変を DCB で拡張し手技を終了した。術後貧血の進行や腫脹の悪化なく経過した。【考察】本症例では Cutting balloon 抜去時に、シースの断裂を認めた。Cutting balloon はブレードがバルーンに包まれる構造となっているが、拡張後ブレードがバルーンに包まれずに外側に露出し抜去時にシースを損傷したと考えられる。シースから抜去時にブレードの脱落が以前報告されているが、今回シースの断裂を経験したので報告する。